



2004年01月07日

**「フォルクスワーゲン環境レポート2001/2002年」版
第7回環境レポート大賞の持続可能性報告優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)を受賞**

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(略称:VGJ、代表取締役社長:梅野 勉、本社:愛知県豊橋市)が発行した「Volkswagen 環境レポート2001/2002」(日本語訳版)が、(財)地球・人間環境フォーラム、(社)全国環境保全推進連合会主催、環境省などが後援する「第7回環境レポート大賞」の環境報告書部門において、「持続可能性報告優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)」を受賞しました。表彰式は、2004年1月16日(金)13:00から、東京大手町のJAホールで行われます。

「環境レポート大賞」は、優れた環境報告書などを表彰することにより、環境情報の開示と環境コミュニケーションを促進し、事業者の自主的な環境保全への取り組みを促すために、平成9年度から実施されている事業です。今回の選考には、応募総数328点の環境レポート類が寄せられ、「環境報告書部門」と「環境行動計画部門」それぞれに設定された各部門賞に対して、合計で32点が選考されました。

「Volkswagen 環境レポート2001/2002」(日本語訳版)の受賞理由については、下記の通りです。

【「第7回環境レポート大賞」受賞理由 / 環境省ホームページより一部抜粋】

「全体を通じ、説明が具体的かつ論理的になされている。事業戦略が明確に示されており、持続可能性への取り組みと関係が理解しやすく、報告書を説得力のあるものとしている。特に、労務面においては、会社の方針・姿勢とともに、社会背景もよく説明されている。経済的側面についても、アニュアルレポート的ではなく、サステナビリティレポートの説明として工夫されている。環境面についても、主要な情報は記載されている。まとめ方が個性的であり、バウンダリー 1の説明等が弱いものの、参考となる部分も多い。日本の読者向けには、国内の問い合わせ先の追記(別紙でも)や日本での活動(販売台数、代理店)等の情報がほしい。」²

¹ この場合は「周辺情報」を意味しています。

² 上記の引用及び転載に関しては、環境省に事前の許可を得ています。

フォルクスワーゲンの環境に対する取り組みは早く、第二次大戦後間もなく再開した旧型ビートルの製造工程における環境対策に端を発し、現在では、世界的規模で独自の環境対策をディーラー単位に至るまで徹底して行っています。ここ日本でも、1992年の豊橋インポートセンターの操業開始当初から、VWグループの環境ガイドラインに沿って、環境に対する自主管理を推進しています。最新の事例では、輸入車両の外装保護ワックスをリサイクル可能な不織布のボディカバーに切り替えるなど、継続的に環境負荷を下げる対策を行っています。

今回の受賞に際してフォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社では、本社VW AGの環境対策を参考にしながら、日本法人としてできる最大限の環境対策を推し進め、引き続き、模範的な社会的責任を果たせるインポーターとして、あらゆる局面での環境保全への配慮と実行、そして、環境情報の開示に努めて参ります。